

第5回 TRIZ シンポジウム 2009 発表者の皆さま

2009年6月12日

日本 TRIZ 協会

シンポジウムプログラム委員会

中川 徹・小西慶久

このたびは、TRIZ シンポジウムに発表をお寄せいただき、ありがとうございました。

先日来ご案内しておりますように、基調講演 2 件、チュートリアル 1 件、一般発表 41 件を受け付けました。

ここに、プログラムを編成し、参加者募集の要項をまとめましたので、本日づけで、Web で公表（日本 TRIZ 協会のホームページ、および日本 TRIZ 協議会公式ページ（『TRIZ ホームページ』内）に掲載）し、TRIZ 協会会員および一般の TRIZ 関連メーリングリストによるメール案内を行い、同時に発表者の皆さまへの連絡を行なっております。和文だけでなく、英文での公表や連絡もありまして、いろいろなものが前後することがあるかと思いますが、ご了承下さい。

さて、プログラムや参加者募集の全体の情報は、上記の公表情報を参照いただくようお願いしまして、ここには、発表者の皆さま全員へのお知らせを記述させていただきます。[なお、特別な事情がある方には個別のメールを別途しております/今後いたします。]

(1) 投稿いただきました発表は、概要とその説明を読ませていただき、そのスコープや内容を判断して、1 件を除く全件を受理し、発表いただくことにいたしました。それぞれに優れた発表をお寄せいただきましたことを感謝しております。

(2) 多数の発表をそれぞれにしっかりと聞き、討論できるように工夫をしております。結論として、オーラル発表をすべてダブルトラック 40 分とし、ポスターセッションは各 7~8 件並行で、紹介込みの 100 分で 2 セッションといたしました。オーラル/ポスターの別は、発表申込みの皆さまのご希望を最大限に考慮いたしました。この割り振り、および時間帯の設定に関しましては、どうぞご了承いただきたく、お願いいたします。

具体的な割り当ては、Web 掲載のプログラムをご覧ください。

もし、特に都合の悪いことがありましたら、お知らせ下さい。

(3) このあと、7月28日(月) 18:00 の締切りで、発表用の最終原稿を提出いただきたく、お願いいたします。いまから、一ヶ月半程しかありませんし、社外発表許可などのお手続きが必要のことと思います。ご多忙の中ですみませんが、よろしくお願いいたします。

(4) 最終原稿の提出物は、オーラル発表とポスター発表で大きく違います。提出物の一覧、使用する書式、枚数制限、英訳版の要/不要など、「最終原稿の提出要領」をご覧ください。この提出要領は、基本的には2月の「発表募集要項」の内容と同じですが、細部の修正・補足をして「発表募集要項 兼 最終原稿提出要項」として、Web 掲載し、また念のために本メールに添付しております。

(5) スライドなどの英訳版の提出をお願いしており、通常の学会などよりもご負担をお掛けしていることと思います。この、英訳スライドを投影し、Proceedings に印刷配付することは、海外

の TRIZ リーダたちや実践者たちを来日して発表しようという気持ちにさせ、参加して有益だったと評価して貰うための重要な要素です。また、皆さんの仕事が海外でも評価されるための基本です。この点をご理解いただき、英訳版の作成にご努力いただけますと幸いです。

英訳の推敲支援を、皆さまのご希望に応じて、昨年度と同様に事務局とボランティアの方の協力で、できるだけ行なっていくよう準備しております。ただ、事務局のキャパシティを超える状況になってきておりますので、御社内やグループでできるだけ練った原稿を提出いただけますようお願いいたします。

(6) 上記に関連しまして、いま事務局では、皆さまおよび皆さまの周辺の方々からのボランティアでのご協力を求めています。具体的には、

(a) 当日の討論における通訳。(逐次通訳、英→和、和→英の両方向)

(海外発表者の場合と国内発表者の場合がある)

(b) 国内発表者のスライドの英訳支援、英訳推敲支援

(c) 海外発表者のスライドの和訳

(d) 海外参加者対応(特に、ビザ手続き、その他メール応答)

の仕事があります。それぞれにタレントとお時間をお願いする案件ですが、今回の TRIZ シンポジウムの成功、ひいては日本の TRIZ の一層の発展のために寄与いただけるものです。どうぞよろしくご協力いただけますようお願いいたします。

(7) 今年のプログラムの一つの特徴は、「自由なグループ討論」の時間を、朝・夕に 5 回 合計 7 時間設定していることです。これは会場が、東京駅から 2 時間かかるため、プログラムの主要部を午前 10 時から午後 6 時に収め、その結果として朝・夕が空いた結果です。この「自由なグループ討論」の時間を有効に使っていただきたく、具体的なテーマや形態を(個別の案で結構です)でご提案いただけないでしょうか?自分たちで新しい仲間を作れるようにしたい、海外の TRIZ リーダたちとじっくり話し合いたい、などいろいろなやり方があるだろうと思っています。

(8) 今年のプログラムは、昨年にも増して充実したものになりました。どうぞ、発表者の皆さんにはできるだけ全日程ご参加いただきたく、お待ちしております。海外からの発表や参加も着実に増加していますので、世界の TRIZ の最先端の人たちと交流いただきたく存じます。

(9) 今年のシンポジウムの最大の課題は、発表者以外での参加者をどれだけ獲得できるかです。厳しい経済状況で出張制限があるとのことを聞いています。困難な時代を切り開くのに TRIZ が使える/有効なのだと、一人でも多くの人に実感していただけるようにしたいと願っています。どうぞ、皆さまのまわりの人たちに参加を呼びかけていただきたく、お願いいたします。

皆さまの発表を得て、充実した TRIZ シンポジウムになるものと大いに期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

敬具